

自由記述（養成所） 回答：104

- C 2 情報化社会に対応して、パソコンを導入した授業。
演習を多くとり入れる。
- C 3 統計学は研究のために必要である。せめて図表の読みとりはできるようにさせたい。
- C 5 他者との交流～自己表現、意見交換。日常生活援助技術の強化。
- C 6 基本的な生活習慣の重要性をくみ入れる（本来は入学前の問題と考えるが現状は大分違う）。
基礎学力をつける。
生活体験をカリキュラムの中に反映できる様な組み立を重視したい。
倫理的な教育内容を入れたい。
- C 7 老人ケア、在宅ケアの充実（病態学、看護技術、判断力応用力）。健康科学。
- C 9 違う世代の人たちと学生との交流の場をもたせること。
- C 11 人間理解を深める（各発達段階の特徴、他）。
病者理解（患者心理、他）。
コミュニケーションテクニク。
- C 12 自ら学ぶというきわめて基本的な意義をどう開発していくか。同年代の大学生も同じだからというのではなく、学ぶことの楽しさや面白さを発見し、探求し続けてゆける教授活動の開発が必要である。
専任教員の意識の改革、非常勤講師への対応についての変革が必要。
- C 13 コミュニケーション、人間関係の成立。
体験から感じとる力を強化する。（ニューカウンセリング）
- C 15 人間関係が結べるようにする。討論できる場を多くとる。
コミュニケーション技術を高める。自己の客観視ができ、自分の傾向がわかり改善できる。
- C 16 学生のアイデンティティの確立と社会に広く目を向けることのできることを意識した内容。
与えられるものばかりでなく、興味をもってとりくめる選択科目の導入等。
- C 17 人や人の生活を考え、又、体験できるような内容（特に老年）
社会のしくみや情勢。
倫理学、人間関係論、コミュニケーション。
- C 18 学生の気質として、対人関係、ストレス耐性が弱いことが考えられるので、人間関係論、自ら問題解決してゆく技法をじっくり教育する。
小児が少数化する中で小児看護学の学習を保育所での学習を別なところ（講義）で(???)行う必要がある。
- C 19 人間関係をよりよく築くために必要な技術。
基本的な生活技術やマナー。
- C 22 対人関係についての訓練。
- C 23 学生間の交流を多くもつ工夫（クラブ活動、選択科目を1～3年合同で学ぶ等）。
- C 24 生活援助技術の習得に力を入れたい。日常生活の中での自分自身の役割不足もあって、気付き、コミュニケーション技術が不得手であることから、指導・訓練が必要である。
新しく入れることは現在考えていない。
- C 27 「生活学」「家政学」など人々の生活現象を扱う内容。「人間関係学」（理論及び実践を含む）。
- C 29 人間関係に関する教育。生まれたときから人とのつながりが希薄な育ち方をしてくると予想されるので、患者と看護婦の関係以前に、人間と人間の関わり、つながりを強化した教育をする必要がある。

- C30 母性、小児看護学の強化。家族看護学のような家族に関する科目の新設。
- C31 学習者を主体とした授業の取り組みを考えていく必要がある。その中で自ら主体的に学び、創造性や柔軟性を身につけ、複雑な社会の中で生涯を通し学んでいける基礎を身につけてもらいたい。
現在の学生は少子化、核家族化の中で育ってきているため、生活習慣が十分身につけていない。その点を考慮した教育を考えていく。
- C32 教員の能力アップ、教員の意識改革。
- C33 集団生活の体験を通して協調性・指導性を養うよう、3学年そろっての行事を年2回実施している。(学校祭とキャンプ)
小児、老人理解のための場を設ける機会を多くする。
- C34 倫理観。共感能力の育成。
- C35 レディネスを補うための補強教育。
パソコンを使う授業。
学生が自ら選んだ課題に取り組む基礎教育。
自己学習能力の育成。
シュミレーションを使った技術教育。
- C37 科学的に思考する能力。
人間存在について考え、感性をみがく訓練。
小集団活動の中で個の力が発揮できるような科目。
- C38 学生が主体的に学習できる環境体制を築く必要がある。そのための教員側の能力育成も必要になる。
- C42 自分の考えや感情を相手に上手に伝えたり、人の話を聴き、関係を成立させていくためのコミュニケーション能力を養うこと。自分で疑問を見だし、考え、学習していく力を育てる学習方法を身につけること。
専門的な知識や技術の修得の前に上記のような能力を養う必要がある。
- C43 学生個々が自らの考えを述べられるように(人の意見や考えに従い、意志をもてていないので)、時間をかけ、表出できる機会をつくる。(学年縦割りのゼミ導入など)
- C45 生活体験が少ない、生活技術が未熟などの問題をもつ学生が多く、体験学習や技術習得の為の訓練、学習の充実が必要。
知識を一方向的に与えられるという学習習慣をもっている学生が多く、自ら学ぶ為の方法や習慣を獲得させることも大切。
- C48 人間関係論に含まれる内容を多くする。
- C50 少子化社会になるからといって基礎教育の内容を強調しようとは特別考えていない。
むしろ社会の変動が激しいため、看護婦に要求されることが年々変わってきているように思われるので、社会に出たら、人間として一人の社会人として対応していけるか等、コミュニケーション技術、心理学等に力を入れたい。
- C51 基礎的学力の向上。人間的成長・成熟度。思考力の育成。
- C53 自ら求める学習姿勢を育てる工夫。
グループ活動のサポート。実習指導の強化。
生活指導を含めた幅広いかわり。
- C54 教育環境(設備) 実習施設の充実。
各専門分野専任教員の質の強化。
- C57 生活体験が希薄な学生が多いため、日常生活援助に関する基本技術の教育の強化が必要である。
自分の考え・意見など、自己表現が十分にできる教育が求められる。

- C58 コミュニケーション理論
生活体験が少ないことによる看護教育への影響を考えると時間を増やして演習を多くし、実体験の中から人間をみつめることができるようにする。
- C59 内容よりも方法の研究が必要と思う。
- C60 個を大切に育てる授業の工夫。
問題解決能力を高める工夫。
体験学習を取り入れて、意味付け、理論化してゆくような教育内容。
- C62 社会人入学生が増えてくる。同年齢集団の学生でなくなるので教育方法を工夫する。
社会の変化に対応できるカリキュラム、教育方法を考えていく。
- C64 小児看護学の強化。子供にふれる機会が少ないため、発達段階がイメージできない。
家政学、一般の知識や体験学習が必要。
- C65 自分が意志表示をしなくても周囲が察してくれる。→自分の思いを相手に伝える、適切に自己表現できる能力。
もまれることが少ないため耐性が弱い。人とのかんけいのとりかたがわからない。→多くの人の中で自分の感情をコントロールできる能力、対人能力。
これらの能力を育成するためにも一方的な講義形式の学習ではなく、小集団や主体的に物言(マ)を考えていく学習方法など、教授方法の検討の必要があろう。
- C66 学校の特性を生かしたカリキュラム→体験学習によって学ぶ実感を持たせていく。赤十字科目の理論と種を訓練、技術の収深(マ)。
学生の個性、能力に合った個人指導→教師とふれあいを多くもたせて、対人関係の親密さを深めていけること。
担当教師による学生相談制。ゼミによる小人数学習。
- C67 平成9年度にカリキュラムを改正したばかりで、まだ評価は早いと思う。
- C68 適性のない人が年々多く入学してきているので、入学時の選択とともに入学後の適性への教育を検討すべきと考える。退学時の原因として適性や目的意識のなさ、人間関係の困難が多く、少子化に共(マ)問題もはらんでいると考える。
- C70 人間関係の形成とか倫理に関する内容を強調。
- C71 受験生にとって魅力的なカリキュラム内容。学校設備、施設の充実。
- C72 3年課程(短大も含め)では、現在の内容でも難しいと考える。現在のものを充実させていく。
- C73 基礎技術の修得。パソコン修得。新規の余裕はない。
接遇マナーの修得に時間がかかる。(理屈でわかっているても行動できない、実習場からその点の苦情が多い)
- C74 選択科目を取り入れる必要性を感じている。
- C76 人間関係能力を高める必要。
良い、悪いという価値観ではなく、多様な考え方ができるようにしていく必要がある。
基本的生活習慣を身につけさせる。
- C77 人間同志の関わる機会を多くし、看護への興味を少しでも増すような内容。
- C79 生活体験やコミュニケーション技術が乏しいことを感じるので、体験できる科目や教育内容を考えていきたい。
- C84 生活体験の少ない学生が増えており、技術テストという緊張の中で少しを見るのではなく、各単元毎に技術を身につけることができるようにしている。

- C 86 基礎技術の充実
（1）時間数を増やす
（2）内容（技術項目）体験する技術を増加
理由：入学前の生活技術レディネスが低下してきているため
- C 89 1 地域における保健・医療・福祉のネットワークづくりや活動の理解を看護者として役割が果たせる教育
2 受け身ではなく自ら考え、広い視野から思考を深める教育
3 社会人としてのマナーや職業倫理を身につける教育
- C 91 体力、気力を養う必要性を感じます。
学習の努力はあるが、精神的にも身体的にももろい感じがします。
- C 93 生活体験が少なくなっているので、基礎看護技術の演習が自由に訓練できる機会を多くしていく必要性を感じている。（実習室の充実と自由解放用時間の延長）
- C 94 1 学生がより大勢の人と交流がもてるような機会をつくり、社会人としての交流も増やす。
2 自分の考えをきちんと述べられる。
- C 95 対人関係訓練
論理的思考の訓練
自己学習能力の訓練
- C 97 看護の発展性を模索するような講義、カリキュラムを充実させたい
情報科学、国際交流、在宅・地域看護学など
- C 99 教員を増員し、教師と学生が多くふれあうようにしている。
- C 103 1 基本的には大学教育とする
2 実習があまりにも多すぎるので少なくしたい。カリキュラムが変わっても時間数が変わらない。
3 教育内容が幅広くなりすぎていると思う。
- C 105 選択科目を導入したり、パソコンを使う授業を多く取り入れたりしていく必要性を感じている。
国際的な視野を広める機会が少ないので卒業時の研修旅行を1～2年前倒すことも検討中である。
- C 107 他者との関係を築く力を養うように設立以来考えてきた。今後もその部分を強化していくことを考えている。
- C 108 基礎看護技術－技術力、倫理観、職業観（職業に対する誇り、使命観）
人間の理解
自己学習力、自律、独立心、社会性
- C 109 自己決定や自己責任について強化
- C 110 人間関係を深めるための演習を取り入れる。一般常識の修得学習、リーダーシップ、メンバーシップの役割理解の演習。
- C 111 日常生活援助技術習得における指導内容、方法の検討、対人関係のあり方、主体的に考える力。
- C 112 看護の内容、場の拡大、看護の対象である個人・家族の理解、経済面を考慮に入れた専門職としてのあり方などを強調していきたい。
- C 113 生活体験、人間関係、自己学習力を高めるための教育内容
- C 119 自己教育力の育成、医療経済に関する内容、患者の権利に関する内容、人間関係能力の育成に関する教育が必要と思います。
- C 120 人間同士が関わるといことがどういうことなのか体験を通して学んでいける内容が必要と考えている。
- C 121 1 多分野との交流 2 ボランティア 3 老人との交流

- C 122 講義形式の授業ではなくグループダイナミクスを使った自主活動ができる授業
人間関係確立のための内容、特に傾聴、意志の伝達、確認などの意義を捉えさせ、その方法を自分たちで体験しながら獲得できることを考えている。つまり「人間理解」に力を入れて行きたい。
- C 123 現在もそうですが、対象としての人間理解をどう充実させていくか。
- C 125 日常的に生活感の少ない学生が多くなってきている。また、家族のあり方、家族そのものに対するあり方が変わり、役割意識や構成メンバーの人間関係も変化してきている。しかし、看護教育が求める人間像は豊かな人間性、倫理的な認識、判断力などそのための生活科学や人間関係論、倫理学、法律と人権など思いはあるが、現状では3年間ゆとりもなく詰め込んでいるので、どのようにしたてるのかは今後の課題である。
- C 128 人間学、ケア、ケアリング
社会と看護の位置づけ、関連性
看護経営、サービスとしてのとらえ方
- C 131 これからの共生社会を担っていけるための基礎として、ボランティア精神を養うことのできる教育内容
- C 134 当校の教育の特殊性をもつ
教育環境の整備（学生食堂、図書内容）
学生のレディネスを強化する
看護を考えさせる、学生生活をエンジョイする、自己学習をする機会をつくる
- C 135 1 健康生活を送るための基本的条件（生活習慣）
2 自己の確立と人間関係
3 職業人と社会使命
- C 136 人間関係論
- C 137 人間を総合的にとらえる際に、発達段階別にとらえることができないことが多くなっているため、イメージできるような内容として行く必要がある。たとえば、老人の体験、妊婦の体験など計画中。また、社会福祉施設なども社会福祉、在宅看護論、老年看護学実習以前に見学してイメージ化をはかるようにしている。
- C 139 個々の学生が課題に直面できるような教育内容として、自分自身でどのように対処すればよいか常に考えることのできる姿勢をもてるようにする。
- C 140 個々に応じて問題解決能力を伸ばすためにコンピュータの使用はよいと思う。しかし、看護関係のソフトはまだ充実されていない。だが、この学習方法は能力に応じて効果があると思うので発展を期待したい。体験学習により他者の思い、考えが理解されると思う。看護において感性を育む教育は必要なので、2側面での教育が必要であると考えます。
- C 142 生活科学、家族社会学
核家族化しているため、家族との関係、日常生活を環境、空間的にどのようにとらえていけばよいか考える機会とする。
- C 143 看護の機能、役割として「日常生活の援助」といいつつも「日常生活」の種々の注意点など理解できない学生も多い。その中で「生活科学」など、「対象となる人の生活」を理解するための教育内容が必要
- C 144 少子化社会としての強調はされていないと言ってよいのかもしれませんが。
- C 145 学生のコミュニケーション技術（対人関係）
- C 147 いろいろな場面や対象に応じた看護展開能力と実践力、つまり看護過程展開能力のアップ。基礎技術の習得。
- C 150 株式会社経営の当看護学校においては、経営となると全く企画出来ない状態にある。
- C 154 よい人間関係をつくるための体験学習、協調性、個人の発想を豊かにするために課外学習を多く入れる必要がある。しかし、時間に制限があるために実践に工夫がいる。

- C 156 人間関係に関する教育内容
- C 157 *人間関係（人を尊敬する。相手を大切にす。自己を表現する。気配りができる。）
*生活体験の拡大—ボランティアも含む。
*愛について（人、物、動物などありとあらゆるものに対するやさしさ）
- C 158 新カリキュラムで意図された「人間理解」「人間関係の学習」を看護の基本として強調していく必要がある。
- C 160 コミュニケーション技術
- C 163 *社会性を身につける：集団で生活したり、小グループを動かす力を身につける。
*学生自信の自分を見つめる時間と方法、そして、自分の考えをまとめ論理的に組み立て表現できる力
- C 164 人間関係技能の育成。主体的な学習に向けた教育。
- C 165 自分が所属する集団を信頼して自分をみつけることができるような機軸を多くする。集団の成長のなかでこそ個の成長発達があることを教務自身が確信すること。科学的な人間観、生命観を対象から謙虚に学ぶ姿勢を身につける中でわがものとする事。
*そのためには実践を重視する。学生自ら問題解決の方向を見いだす。
*その意味で教えるということではなく学び合うという関係がつけられる授業形態。
*実習は部分的に切りぬいたものではなく学生として最後まで責任をもたせる。
高校訪問の中では、学生数は減少しても看護を目指す学生の実数には大きな変化はない。
- C 166 人間理解が深まる教科—少子高齢社会の中で学生と大きく隔たる年齢差のある対象の有り様をどのように理解していけばよいか。
専門職業人としての倫理
- C 167 生活体験の乏しさを強く感じる最近です。
人間関係論、家族関係論、生活科学、食生活論などを入れたいと考えています。
- C 170 対象理解、判断力、技術と看護行為が結びついた看護実践力育成の重視。
- C 171 内容としては家族、人間関係、心理学などを強調していきたいと考えている。今の学生を見ているとおしゃべりはできるが相手の話を聞いたり自分の思いや考えを伝えたりすることがなかなかできない。自分を取り巻く家族関係も希薄になってくるのではないかと思うので充実させたい。
- C 173 日常生活での基本的マナー。各発達段階における人間の心理・社会面。

少子化社会における看護基礎教育のあり方に関してのあなたのお考え、貴校の取り組みの実際についてお尋ねします。以下の質問の該当する欄に記入または該当する番号をご記入下さい。

入学者の確保について

貴校が受験者を多くするためにやっている工夫についてお尋ねします。

問1 3～4年間に入学試験科目を変更しましたか。

(1はい 2いいえ)

問1-1 はいと答えた方は、その内容をお答えください。

変更前
変更後

問2 入学試験科目に選択科目を設けていますか。

(1はい 2いいえ)

はいと答えた方は、次の質問にお答えください。

問2-1 選択科目を設置した時期(1昭和・2平成 年度入学生から)

問2-2 受験生が選択科目を決定する時期はいつですか。

a 受験申込時 b 受験時に問題をみて
c その他 ()

年度

問3 社会人入学の枠を設けていますか。

(1はい 2いいえ)

はいと答えた方は、次の質問にお答えください。

問3-1 職業領域を定めていますか。

(1はい 2いいえ)

問3-2 社会人の経験年数を定めていますか。

a はい:()年以上
b いいえ

年以上

問3-3 社会人入学の枠を設けた時期(1昭和・2平成 年度入学生から)

問3-4 社会人入学の枠に上限は決まっていますか。

(1はい 2いいえ)

年度

はいと答えた方にお尋ねします。

問3-4-1 社会人入学の枠：1学年 a () 名中、b () 名 c () %以内

問3-4-2 社会人の入学試験科目は別に設けていますか。
(1はい 2いいえ)

a	名中
b	名
c	%以内

問4 推薦入学の枠は有りますか。
(1はい 2いいえ)

--

はいと答えた方は、次の質問にお答えください。

問4-1 推薦入学の枠を設けた時期：1昭和・2平成 () 年度入学生から

問4-2 推薦入学の枠は上限が決まっていますか。
(1はい 2いいえ)

	年度

--

はいと答えた方は、次の質問にお答えください。

推薦入学の枠：1学年 a () 名中、b () 名 c () %以内

問4-3 推薦入学の試験内容は何ですか (複数回答可)。

a	名中
b	名
c	%以内

- a 学科試験 (科目名：)
- b 小論文
- c 面接
- d 身体検査
- e その他 ()

問4-4 推薦入学の推薦の受け方についてお尋ねします。

問4-4-1 推薦入学の推薦を受ける高校の範囲をお尋ねします。

- a どの高校からでも推薦を受け付ける。
- b 当方が高校を指定し推薦を受け付ける。
- c その他 ()

--

問4-4-2 推薦入学の推薦を受ける学生の条件をお尋ねします。

- a 看護職志望であることだけを条件に推薦を受け付ける。
- b 成績・人物・その他の条件を定めて推薦を受け付ける。
- c その他 ()

--

問4-4-3 推薦入学の推薦を受ける学生の人数をお尋ねします。

- a 高校毎に推薦人数を定めている。
- b 高校毎の推薦人数は定めていない。
- c その他 ()

--

貴校が行っている受験者へのPR方法についてお尋ねします。

問5 受験者へのPRとして入学案内等の資料配布を行っていますか。

(1 はい 2 いいえ)

はいと答えた方は、次の質問にお答えください。

問5-1 配布方法はどのようにしていますか。

(a 請求があったら配布 b 請求がなくとも配布)

問5-2 請求がなくとも配布すると答えた方は、どこに配布するのかをお答えください。

(複数回答可)

- a 自校所在地の都道府県内の全高校
- b 複数の都道府県内の全高校
- c 受験してもらいたい高校
- d 過去の受験者の出身高校
- e 過去の入学者の出身高校
- f その他 ()

問6 入学生募集のPRのために人を派遣していますか。

(1 はい 2 いいえ)

はいと答えた方は、次の質問にお答えください。

問6-1 派遣はおよそ、年に何回、何箇所ですか。

年に a () 回、b () 箇所

a	<input type="checkbox"/>	回 箇所
b	<input type="checkbox"/>	

問7 PRのために関係者を学内に招いていますか。

(1 はい 2 いいえ)

はいと答えた方は、次の質問にお答えください。

問7-1 PRのために招く関係者はどんな人ですか (複数回答可)。

- a 高校生 b 高校教師 c 高校生の親
- d 地域の人々 e その他 ()

問8 入学生募集のための広告を出していますか。

(1 はい 2 いいえ)

はいと答えた方は、次の質問にお答えください。

問8-1 その広告はどこに出していますか (複数回答可)。

- a 医療・看護系雑誌 b 一般の雑誌 c 新聞
- d ラジオ e テレビ f 電車・バス g 駅舎
- h 病院 i 役所 j 公報
- k その他 ()

問9 高い質の受験者を確保するために取入れているPR方法はどんなことですか。

--

応募者の変化についてお尋ねします。

問10 3～4年前と比べて応募者数に変化はありますか。

(1減った 2増えた 3変化なし)

増えたと答えた方は、次の質問にお答えください。

問10-1 応募者数が増えた要因として考えられるのは何ですか (複数回答可)。

- a 施設設備を新しくした。
- b 受験方法を変更し受験しやすくした。
- c PR方法を工夫した。
- d 地域の高校生数が増加した。
- e 地域の看護教育機関・定員が減少した。
- f 国家試験の合格率が高い。
- g 就職率が高い。
- h 実習場所の評判が良い。
- i 教職員の質が高い。
- j 国際的な視野を広める機会を多くした。
- k 学生寮がある。
- l 教育内容・カリキュラムに特色がある。
- m 授業料が安い。
- n その他 ()

応募者数が減ったと答えた方は、次の質問にお答えください。

問10-2 応募者数が減った要因として考えられるのは何ですか (複数回答可)。

- a 施設設備が老朽化した。
- b 受験科目が受験生に負担である。
- c PRが不足している。
- d 地域の高校生数が減少した。
- e 地域の看護教育機関・定員が増加した。
- f 国家試験の合格率が低い。
- g 就職率が低い。
- h 実習場所の確保が困難である。
- i 専門性をもつ教職員の確保が困難である。
- j 国際的な視野を広める機会が少ない。
- k 学生寮の老朽化や廃止
- l 教育内容・カリキュラムに特色がない。
- m 授業料が高い。
- n その他 ()

問11 3～4年前と比べて応募者の質の変化で特徴的なものはありますか。

(1はい 2いいえ)

問11-1 はいと答えた方は、その内容をお答えください (複数回答可)。

- a 基礎学力が高くなってきた。
- b 基礎学力が低くなってきた。
- c 看護婦になりたい人が増えてきた。
- d 看護婦にならなくてもいいという人が増えてきた。
- e 短大・大学の卒業者が増えてきた。
- f 職業高校からの入学者が増えてきた。
- g その他 ()

教育の充実について

問12 少子化社会で育ってきた現在の学生への教育方法について、学校として工夫していることをお尋ねします。あてはまる番号・記号をご記入ください。

- | | と
そ
も
で
あ
る | 全
然
そ
う
で
な
い | |
|-------------------------------------|----------------------------|---------------------------------|--------------------------|
| 1 学生が意思を明確に表示する機会を多くしている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 2 学生同士が異なる意見を交流できるようにしている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 3 学生の自己表現を促すための教師トレーニングを行なっている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 4 授業に限らず教師と学生との交流が多くなるようにしている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 5 学生が新たな体験が出来るように支援している。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 6 小集団学習を多く取り入れている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 7 学生が自ら選んだ課題に取り組む機会を多く持つようにしている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 8 自己学習能力を育成するための学習環境を整えている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 9 看護学の講義は事例を用いて実践の根拠が明らかになるようにしている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 10 従来以上に臨地実習の指導に重点をおいている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 11 看護実践力を高めるために技術をみがく重要性を学生に伝えている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 12 教育目標の達成を重視している。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |

- 13 従来以上に選択科目を多くしている。 (a はい b いいえ) →
- 14 レディネスを補うための補強教育を行なっている。 (a はい b いいえ) →
- 15 学力別クラスを設けている。 (a はい b いいえ) →
- 16 在学可能期間を最大限に生かして履修できる教育プログラムにしている。 (a はい b いいえ) →
- 17 学校カウンセラーや学生相談係(部)をおき個々の学生を支援している。 (a はい b いいえ) →
- 18 パソコンを使う授業を多くしている。 (a はい b いいえ) →
- 19 外国など遠隔地の学校と交流する場を設けている。 (a はい b いいえ) →

問13 少子化社会における看護基礎教育の内容として、今後どんなことを強調、もしくは新しく入れなければならないと考えますか。

具 体 的 な 内 容 ・ 考 え 方

問14 養成所の方にお尋ねします。()内のあてはまる番号をご記入ください。

- 1 大学・短大から業務依頼を受けて開講している科目がありますか。
 ※例：福祉系大学からケア技術の授業の委託を受けている。
 (1 はい 2 いいえ) →
- 2 大学・短大から特定科目の聴講生を受け入れていますか。
 ※例：福祉系大学から看護学概論の授業の委託を受けている。
 (1 はい 2 いいえ) →
- 3 在学生在が大学・短大で科目履修ができるようにしていますか。
 (1 はい 2 いいえ) →

はいと答えた方は、科目履修を可能にするために行っている方法をお書き下さい。

--

4 看護以外の専門職の資格取得ができるようにしていますか。

(1 はい 2 いいえ) →

はいと答えた方は、その資格名と資格取得への支援方法をお書きください。

問15 大学・短大の方にお尋ねします。()内のあてはまる記号を一つ選んでご記入ください。

1 他大学との単位互換ができるようにしていますか。

(a 実施している b 実現に向けて取組んでいる c 考えていない) →

2 専門学校を卒業した人について、専門学校での学修を認定していますか。

(a 実施している b 実現に向けて取組んでいる c 考えていない) →

3 科目等履修生制度を設けていますか。

(a 実施している b 実現に向けて取組んでいる c 考えていない) →

4 聴講生制度を設けていますか。

(a 実施している b 実現に向けて取組んでいる c 考えていない) →

5 研究生制度を設けていますか。

(a 実施している b 実現に向けて取組んでいる c 考えていない) →

6 大学の方にお尋ねします。大学院を設置していますか。

(a 設置している b 実現に向けて取組んでいる c 考えていない) →

問16 教育の充実のためには教員の資質の向上が重要ですが、貴校で取り組んでいることはどんなことですか(複数回答可)。

教育能力の向上のために

- a 図書費・教材費を保障する。
- b 授業の準備時間を保障する。
- c 授業について意見交換する場を設ける。
- d 授業公開を推進している。
- e 授業研究の指導者を定める。
- f 組織的に教育評価を行っている。
- g その他 ()

研究能力の向上のために

- a 研究費および研究旅費を保障する。
- b 研究時間を保障する。
- c 研究の指導者を定める。
- d 研究の仲間づくりを推進している。
- e 学内で研究成果を発表する場を設ける。
- f 学会への参加を推奨する。
- g 研究業績に関する年報等を作成する。
- h その他 ()

教師としての総合的な能力の育成のために

- a 研修に出す。
- b 外部からの講師依頼に積極的に応ずる。
- c 意図的に業務分担をローテーションする。
- d 大学院への進学を勧める。
- e その他 ()

その他 ()

就職指導について

問17 就職指導について、あなたのお考えをお尋ねします。あてはまる番号をご記入下さい。

- | | と
そ
う
も
あ
る | 全
然
そ
う
で
な
い | |
|-------------------------------------|----------------------------|---------------------------------|--------------------------|
| 1 看護の専門領域を意識した職場選択ができるよう指導している。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 2 基本的な看護が幅広く行えるような職場選択ができるよう指導している。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 3 将来国際的な場で活動することを視野に入れて指導している。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 4 本人の成長を期待して継続教育が充実している病院を勧めている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 5 就職浪人を避けるよう指導している。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 6 就職試験での面接の受け方を指導している。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 7 自分で就職先を開拓させている。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |
| 8 新たな職場開拓を意図して就職を指導している。 | 6 5 4 3 2 1 | | <input type="checkbox"/> |

問18 貴校では学校として職場開拓の必要性がありますか。

(1 はい 2 いいえ) →

はいと答えた方にお尋ねします。

職場を開拓するときには何を重視しますか。()内のあてはまるものを一つ選んで下さい。

- | | | |
|-------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 1 病院の理念・組織 | (a 重視する b さほど重視しない c わからない) | → <input type="checkbox"/> |
| 2 看護部の理念 | (a 重視する b さほど重視しない c わからない) | → <input type="checkbox"/> |
| 3 医師のチーム医療に対する考え方 | (a 重視する b さほど重視しない c わからない) | → <input type="checkbox"/> |
| 4 社会的評価 | (a 重視する b さほど重視しない c わからない) | → <input type="checkbox"/> |
| 5 個人的つながり | (a 重視する b さほど重視しない c わからない) | → <input type="checkbox"/> |

問19 貴校の就職指導の体制についてお尋ねします。
就職指導の担当者を定めていますか。
(1 はい 2 いいえ)

はいと答えた方は、次の質問に答えてください。

職種と人数：看護教員 (a 設置人数 名) 事務職員 (b 設置人数 名)

a 名
b 名

少子化社会における看護基礎教育のあり方について

問20 少子化社会における看護基礎教育のあり方についてご意見をお聞かせください。

以上で質問はすべて終了いたします。ご回答いただき、ありがとうございました。

厚生科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）

（分担）研究報告書 第Ⅱ部

平成10年度開講の看護教員養成講習会（8か月）の全国調査

目 次

ページ

はじめに	1
I. 研究目的	1
II. 研究方法	2
III. 研究結果	2
1. 8ヵ月看護教員養成講習会の概要	2
2. 8ヵ月看護教員養成講習会になってから新規に設定された教育内容について	3
3. 看護教員として看護観を深め、教育技術を習得する教育内容について	3
4. 看護教員養成講習会の現状	4
IV. 考察	5
1. 看護教員養成講習会教育内容の実態	5
1) 8ヵ月看護教員養成講習会のカリキュラム	5
2) 8ヵ月看護教員養成講習会になってから新規に設定された教育内容について	5
3) 看護教員として看護観を深め、教育技術を習得する教育内容について	6
2. 看護教員養成講習会運営の実態	6
3. 看護教員養成講習会の課題	7
V. 結論	7
終わりに	8
引用文献	9
表 1～表 6	
8ヵ月看護教員養成講習会の概要	10
表 7～表 16、図 1	
8ヵ月看護教員養成講習会になってから新規に設定された教育内容	12
表 17～表 23	
看護教員として看護観を深め、教育技術を習得する教育内容	16
表 24～表 28	
看護教員養成講習会の現状	18
資料 1. 看護教員養成講習会教育内容	22
資料 2. 看護教員養成講習会開催及び開催予定	23

平成 10 年度開講の看護教員養成講習会（8 ヶ月）の全国調査

はじめに

少子高齢時代の到来により 14 歳以下の人口の占める割合は、平成 7 年(1995)に 15.9%であったものが平成 17 年(2005)には 14.3%に減少し、一方 65 歳以上の人口の割合を同年で比較してみると 14.5%から 19.6%に増加すると推計されている。このことは看護の専門教育をうけようとする 18 歳の男女の人口は減少しながらも、看護を必要とする高齢者は増加していることになり、国民の健康を支える専門職として量と質の両面から看護職員育成の需要が高いといえる。

このような中、看護基礎教育に質の変化が求められ平成元年と平成 8 年及び平成 10 年の保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の改正では老年（人）看護学、精神看護学、在宅看護論が新しく柱立てされ、カリキュラムの充実がはかられた。また、教育体制の強化を図るため平成 8 年の改正では 3 年課程看護婦学校養成所の専任教員数が 4 人以上から 8 人以上に、平成 10 年には 2 年課程看護婦学校養成所の専任教員数は 3 人以上から 7 人以上に増やすとされた。

平成 10 年（1998）現在のわが国の看護婦等学校養成所総数 1,884 校のうち養成所、高等学校専攻科（衛生看護科含む）、看護大学、短期大学（専攻科含む）の占める割合は養成所 74.1%、高等学校専攻科（衛生看護科含む）9.9%、看護大学 8.5%、短期大学（専攻科含む）7.5%であった。ここ数年看護大学が増加しているといわれるものの、これをみると養成所の担う役割は大きいものがあり、そこで看護基礎教育にあたる看護教員の需要は今もなお高いといえる。

保健婦助産婦看護婦学校養成所指定規則の改正を受け、平成 8 年度には看護教員養成講習会が 6 ヶ月から 8 ヶ月に延長された。この改正された基準カリキュラムは、総時間数 900 時間以上とし、新しく加えられた教育内容は看護教員の専門性を高め教育内容を豊かにするための在宅看護論演習と専門領域別演習、授業を構成し実践能力を養うための看護教育実習である。

看護教員養成講習会に関する研究には受講生を対象に教育内容の検討¹⁾や講習会の評価^{2) 3)}、講習会の卒業生の動向調査⁴⁾や看護教員の資質の研究^{5) 6)}がみられた。これらは平成 8 年以前の 6 ヶ月看護教員養成講習会を対象にしたものであり、8 ヶ月看護教員養成講習会の全数を対象に調査したものはない。そこで平成 10 年度は看護教員養成講習会が 8 ヶ月に延長されて 2 年目を迎えた年であり、今後の改善、充実にむけた検討の資料とするために研究に取り組んだ。

I. 研究目的

全国の 8 ヶ月看護教員養成講習会での教育と運営の実態を明らかにする。

II. 研究方法

調査対象者：平成10年度に8ヶ月看護教員養成講習会（以下講習会と称す）を開講している全国17道府県（以下県と称す）の教育担当者17名の全数調査

調査方法：作成した質問紙を郵送し、記入後同封の返信用封筒で返送するように依頼

調査内容：①講習会が8ヶ月になってから新規に設定された教科についての教育内容と教育方法

②看護教員として看護観を深め教員として教育技術を習得するための科目についての教育内容と教育方法

③講習会の運営等

回答様式：設問により多肢選択式、自由記述式の両方を組み合わせた

回収状況：調査を依頼した17ヶ所全ての担当者から回答が得られた

調査期間：平成10年11月～平成10年12月

III. 研究結果

1. 8ヶ月看護教員養成講習会の概要

〔受講生〕 受講生数は40名以下8県、41名以上9県であった。最も少ない受講生数は19名で1県、最も多い受講生数は68名1県であった（表1）。受講生の最高年齢は40歳代が12県、50歳代が5県である。最低年齢は17県すべてが20歳代であった（表2）。

〔担当者〕 担当者の講習会担当回数は3回目以下14県、4回目、5回目がそれぞれ1県ずつである（表3）。また、担当者の看護教員の経験年数は未経験が5名、1～3年が3名、7～9年が1名、10年以上が7名であった（表4）。

〔過去の開催回数〕 各県の講習会の開催回数は1～5回が7県、11～15回4県、21回以上は6県である（表5）。

〔総授業時間数〕 講習会別の総授業時間数は900～940時間であった（表6）。授業時間数をみると教育分野は90時間とほとんど同じであり、専門分野では651時間2県、652～682時間5県、683～711時間10県と差があった。内訳では更に県ごとの違いが大きく、看護教育課程・演習は99～228時間、看護教育方法・演習は135～225時間で計画されていた。A県では看護教育課程・演習は228時間、看護教育方法・演習は144時間、P県では看護教育課程・演習は105時間、看護教育方法・演習は225時間で計画されていた。

〔授業科目〕 授業科目を分野別にみると、基礎分野では論理学又は論理的思考は全県で開講され、心理学は16県、哲学は14県、倫理学は2県であった。教育分野では全県で開講されているものは教育原理、教育方法、教育心理学、教育評価であり、これに教育課程を加えている県が1県みられた。専門分野では看護論、看護教育論、看護教育課程等は